

学校へ行こう、地域に学ぼう

～地域と学校がつながるネットワークづくり～



弘前市一中学区・学校支援地域本部事業（αネットワーク）／第一中学校 コーディネーター：今 薫・工藤千鶴子

学校や地域の概要

弘前市立第一中学校は弘前城趾の北東部に位置し、古くからの住宅地、商店街、農業地域に加え、近年新興住宅街も広がり、核家族化・少子化も進んでいる傾向があります。伝統的に横の連携重視の町内や、積極的に地域づくりに力を入れている地区も見受けられます。

地域全体の教育に対する関心は非常に高く、おおむね教育活動に協力的ですが、一方では価値観の多様化も進みつつある状況です。

学区には四つの小学校があり、減少傾向にあるものの生徒数は県内1を誇っています。

わが校のボランティア活動

- 毎年春に行われる、生徒や地域住民が多く参加しての花壇作り。
- P T A総会時に託児所を開き、保護者が授業参観や総会への参加が容易になりました。
- 図書室を機能的に使い易くするために改修を行いました。
- “土淵川ウォーク”企画、河川関係団体との連絡調整を行いました。
- 部活動支援（囲碁・将棋部指導）
- 学区小学校では、読み聞かせ、通学路パトロール、子どもたちへの声掛け、総合学習での体験学習講師、放課後の活動支援等を行っています。

コーディネートの実際

- 積極的に事業を計画し、参加することにより学校を様々な視点で評価することができました。
- 地域にある様々な資産に対して改めて目を向けることにより、新たな発見が数多くありました。
- 生徒たちのパワーをもらうことに大きな感動があり、ボランティアにとって大切な宝物となりました。

担当者・コーディネーターから一言

- ・学校に出向いてのボランティアだけでなく、子どもたちが地域活動に参加したりボランティアをする橋渡しをすることも本活動の特色です。
- ・生徒と地域住民と学校との架け橋になればと思い活動してきました。

わが校の主な活動

◇土淵川ウォーク

- ・平成21年10月25日（日）
- ・本校は学校の隣を流れる（学区内の4つの小学校区を流れる）土淵川を大切にする活動を行ってきましたが、昨年度から土淵川の上流・久渡寺から学校までの川沿い12kmを中学生が小学生・保護者・地域有志と歩く活動を「αネットワーク」が主催で始めました。
- ・普段から、土淵川遊歩道の清掃、草刈り、植樹、生物調査などを行ってきましたが、さらに上流から歩くことで、流域の自然、環境、生活の様子を知ろうと125名が参加しました。実施にあたって、中南地域県民局河川砂防施設課との連絡交渉、第一中学校の担当者との打ち合わせ、学区小学校への案内作り、配布、片道のバスの手配をコーディネーターが行いました。
また、第一中学校への到着を豚汁とおにぎりで迎えましたが、その準備に保護者、OBの保護者に呼びかけ、ボランティアをお願いしました。晴天にも恵まれ、学校付近の土淵川にサケの遡上を発見するなど、土淵川を通して子どもたちが地域と地域の方々と触れ合った一日でした。



得られた成果

- PTA活動とは別に、保護者・地域の方々がボランティアとして、それぞれの技術等を提供することにより、地域関係機関が活動の一環として積極的に学校に取り組むようになりました。
- 地域住民が学校の事業に積極的に参画することにより、日常の学校活動に対し関心を持つようになりました。
- 生徒が地域住民たちと積極的に関わりを持つことで、地域についての想いを持つことができました。

今後の課題と展望

第一中学校は大規模校で、地域は歴史的にも重要な弘前公園や一般商業地区、農業地区、住宅地区と様々な顔を持っており、地域には多くの卒業生が今も住んでおり学校への関心は高いものがあります。

生徒は地域に、地域は学校へとお互いに交流することで更なる交流が広がると考えます。



地域の力を学校へ

～子どもたちの笑顔のために～



平川市学校支援地域本部 担当者：小野 寿子／小和森小学校 コーディネーター：鎌田 晃

学校や地域の概要

小和森小学校は、現在児童数が306名で学級数が14という中規模校です。今年度、外国語活動の研究校に指定される等先進的な教育活動を行っています。

地域は津軽平野の南東部に位置し平野部に学区があります。この地域は、弘南電鉄黒石線が貫き、また、近隣の市町村へ通じる主要道路のすべてを有する等、地理的にも平川市の要の部分にあたります。また、学校周辺は大光寺新城跡として、多くの遺跡が発掘されており、古い歴史と伝統の香りが高い地域でもあります。

わが校のボランティア活動

これまでも地域の方々やPTAの方々の協力を得ながらボランティア活動を行ってきました。代表的なものとして、地域の方々には「読み聞かせ活動」や「安全見守り隊」「米作り」などに協力をいただいている。また、PTAの方々には「環境整備」や「部活動の指導」「資源回収」といった活動に協力をいただいている。

しかしながら、これらの活動が体系化していないことがあり、携わった職員がいればできるといった部分が見られたので、いつでも誰でも思いついたときに、必要なボランティアが見つけられるということが、学校の課題でした。

コーディネートの実際

コーディネーターである私自身、自営業を営んでいることもあり、市内各所に顔を出すことが多いことを最大の武器として、人脈を生かすことを念頭において活動を行っています。特に、これまでよく学校まわりをしていた関係で、学習ボランティアについては退職教員へのアプローチを心がけています。

また、安全指導など時間帯が保護者が活動するには難しいと考えられる場合には、地域の高齢者の力をできるだけ借りるように心がけています。幸いかなりの数が現在登録してくれています。



担当者・コーディネーターから一言

小和森小学校は自分の子どもたち4人が通った学校であり愛着のある学校です。そこで、今現在頑張っている子どもたちが少しでもよい環境で、そして楽しい学習ができるようにお

手伝いをしたいということで頑張っています。

わが校の主な活動

【1】学校の環境整備にかかわるもの 庭師による庭木手入れ講習会 (参加人数 30名)

学校の環境を整えることは、落ち着いた雰囲気の中で学習できるということで、教育活動を進める上で重要な要素となるものです。しかしながら、庭木の手入れとなると技能主事一人ではなかなか手が回らないのが現状で、多くの人が集まってこそできる取組です。

今回は庭師を招くということで、自分の庭木の手入れの参考にもなるという触れ込みで、ボランティアの募集をしました。主な参加者は、地域のおじいちゃん、おばあちゃんが多く参加してくれました。和気藹々と作業が進められ、かつ学校に気軽にこれる雰囲気を作れたことはうれしいことだと思っています。

【2】学習活動にかかわるもの・・・調理実習【3名】

調理実習といえば5、6年の家庭科と思いがちですが、今回は2年生から生活科で育てたサツマイモを使った調理を行いました。火を使う実習なので、誰かお手伝いできる人がいないかという相談を受けたので、3の方にお願いしました。当日はスイートポテトと大学芋を作ることができ、子どもたちは大喜びでした。日記にも家に帰って実際に作ってみたと書いていた子が何人かいたそうです。また、来ていただいたボランティアの方も「癖になりそう。またいつでも呼んでください。」という感想を話していたので、今後またお願いする機会が増えてくると思っています。



得られた成果

なんといっても学習の幅が広がったことがあげられます。ともすれば、教室の中で行われがちな学習に風穴を開け、直接体験できる学習が増えたことは特筆されます。間違いなく子どもたちの学習に深まりを与えたと考えます。

さらには、人とのつながりが広まったこともあげられます。今回の取組を行ってから、かなりの人員が学校に足を運ぶようになりました。地域の学校としての足場を築きつつあるように思います。学校の垣根を低くし「開かれた学校」が求められている昨今ですが、間違いなくその一歩を踏み出したと考えています。

今後の課題と展望

だいぶ外部の人材をボランティアとして生かす体制は整ってきましたが、今後とも学校職員に対して、常に地域の人材を活用するという意識を喚起する必要があると考えます。さらに、県内他地域において行われている、取組などをもっと紹介していく必要があると思います。



中南地区
平川市



地域にねざした学校づくり

～地域支援の再認識と再確認～



田舎館村田舎館中学校支援地域本部 担当者：葛西 裕幸／田舎館中学校 コーディネーター：阿保 満子

学校や地域の概要

田舎館中学校の生徒数は229名。生徒たちは明るく素直で生活態度も良く、部活動にも積極的に励み、学習にも落ち着いて取り組んでいます。高校進学ではほとんどの生徒が自分の第一志望校に入学しているようです。

津軽平野南部に位置し、中央部に浅瀬石川、西部に平川が流れ、米、りんご、野菜、イチゴ等の生産が多い農村地帯。中でも米は津軽平野屈指の産地です。田舎館中学校の学区は3小（田舎館小、西小、光田寺小）学区から構成されています。

わが校のボランティア活動

＜学習支援＞救急救命講習会、不審者対策教室、思春期教室、職場体験学習・職場訪問学習、赤ちゃんふれあい教室、情報モラル講習会、進路進学会、薬物乱用防止教室、喫煙予防教室、とうふ料理体験、部活動指導（野球、ソフトボール、サッカー、バレー、ボーリング）

＜環境支援＞松のせん定、ねぷた祭と宵宮巡回、館中祭の食堂売店運営、下校巡視、再生資源回収、卒業式コサージュ作り

コーディネートの実際

学校担当者との情報交換では、学校側の要望を聞くだけでなく、社会教育団体に関する情報や他地域のボランティア活動例を紹介しています。また、支援活動では、先生、児童生徒、ボランティアの関わりや活動状況を取材し、ボランティア通信やコーディネーター便りを作成・配布するなど、広報活動にも取り組んでいます。さらに、地域教育協議会に出席し、支援活動について意見交換をしたり、月1回のコーディネーター会議等で各学校の活動状況やボランティア人材について情報交換しながらコーディネートに生かしています。

担当者・コーディネーターから一言

担当者：たくさんの方を知りました。自然体で活動を進めています。

コーディネーター：コーディネーターの存在も徐々に理解され、担当者以外の教職員とも、もっとコミュニケーションをとっていきたいと思っています。



わが校の主な活動

◇ P T Aが主体となった活動

【1】再生資源回収

P T A会員はもちろん、村内の毎戸に協力のチラシを配布し、年1回行っているのが、再生資源回収です。今年はトラック提供・運転協力者が75名のぼり、活動を支えてくれました。生徒も地区で活動する生徒、学校で活動する生徒と全員が参加。生徒と地域の人が一緒に活動することに大きな意義があり、生徒はたくさんのことを見学しています。この活動は村内3小学校でも行っているため、中学校の時に出す分を別に保管している家がほとんどであり、その思い一つ一つが大きな学校支援となっています。



【2】文化祭の食堂売店運営

毎年実施される文化祭の食堂や売店の運営は、P T Aが行ってくれていて、今年は2日間で延べ100名程の協力がありました。食堂では人気の津軽そば、うどん、売店ではアイス、ジュース、おにぎり、焼きそばがよく売れ、生徒もP T Aも大いに満足していました。



【3】安全な通学に向けた活動

生徒たちに安全な通学をということで、文化祭終了後にP T A会員による下校指導・巡回が行われ、今年は昨年度購入した防犯ベストを着用して生徒の帰宅を見守ってもらいました。また、防犯ステッカーを協力者の車に貼った無言の防犯活動も行っています。

得られた成果

＜子ども＞たくさんの人と関わり、多くのことを吸収し、一生懸命活動しています。

＜学校＞今本当に必要な学校支援活動を進めていると思っています。学校支援の形を模索するのではなく、今ある学校支援を大事にしていくことにより学校支援の輪を広げていっています。

＜ボランティア＞それぞれがたくさんの人を知り、その人なりの学校への思いを感じ取ることができます。

今後の課題と展望

昨年度の活動を引き継ぎ、諸活動を行っています。本事業のための活動という意識はなく、学校として必要な活動を進めています。来年度は創立50周年にあたるので、P T Aの意識のさらなる高まりが期待できると考えています。

子どもが活躍する学校づくりのために

～地域・保護者との絆を大切にして～



田舎館村田舎館小学校支援地域本部 担当者：内田 貴士／田舎館小学校 コーディネーター：小野 敏子

学校や地域の概要

田舎館小学校の児童数は151名。子どもたちは明るく素直でお互いを思いやる優しい心をもっています。弥生水田再現体験や地域の伝統行事を含んだ特色ある教育に取り組んでいます。保護者は学校への関心が高く、教育への関心も増していると感じています。

学区の北側には浅瀬石川が流れ、中央を貫くように102号線バイパスが通っています。周囲は豊かな水田に囲まれた純農村地帯ですが、近年は畑作転換地も見られます。学校は役場に近く、村の中心部に位置しています。

わが校のボランティア活動

<学習支援>

交通安全教室、弥生水田再現体験、避難訓練、田植え、クラブ（獅子踊り、押し花、茶道）、校外学習引率補助、読み聞かせ、土器作り、もちつき大会、ユニバーサルデザイン出前授業、祝い亀作り、とうふ作り、スキー教室

<環境支援>

登校指導、クリーン作戦、花壇整備、防じん剤まき、校庭散水運動会準備補助、松のせん定、夏休みプール監視、包丁とぎ、資源回収、雪囲い

コーディネートの実際

学校からの要望に沿って人材を探し、紹介しています。（例：地域の老人クラブの人に米作りの指導補助を依頼）また、各支援活動を取材して活動の様子を把握したり、担当者やボランティアと情報交換しています。コーディネーター間の情報交換の場で新たなボランティア情報を得て学校へ紹介したところ、新たな活動につながりました。（例：地域イベントで無料包丁とぎコーナーがあることを知り、小学校家庭科室の包丁とぎを依頼）ボランティア通信やコーディネーター便りの作成・配布等の広報活動にも取り組んでいます。

担当者・コーディネーターから一言

担当者：PTAをはじめ、地域の方々の協力のありがたさを感じています。

コーディネーター：学校の要望に合わせて、地域の方々を紹介することができて良かったと思います。今後、地域の情報を把握し、学校へ知らせていくたいと考えています。

わが校の主な活動

◇現代と弥生時代の米作り

【1】田植え

5月下旬、1～4年生は、地域の老人クラブや学校田の田主さんの協力で田植えをします。5～6年生は村にある「史跡垂柳遺跡」弥生水田体験田で、村の文化財担当職員の指導を受け、弥生時代の土おこしや田植え（古代米の直蒔き等）をします。



【2】稻刈り

9月下旬、1～4年生は学校田の稻刈りをします。特に4年生はボランティアの方から棒がけの穴ほり、棒立て、稻のかけ方も教わりながら作業を進めます。5～6年生は貫頭衣を着て、手作りの石包丁と土器を使った古代の稻刈りをします。



【3】もちつき、古代米の試食

1月上旬、収穫したもち米を使い、全校児童と保護者が一緒にもちつきをします。この日は米作りでお世話になった老人クラブの方々も招待してみんなで収穫に感謝し、つきたてのもちを食べます。5～6年生は収穫した古代米を土鍋で炊き、現代米と香りや味の違いを比べながら試食します。炊きたての古代米(紫米)はとてもいい香りがします。



中南地区

田舎館村

得られた成果

＜子ども＞地域の方とふれあう機会が多くなり、地域の自然や文化に対する考え方方が広まっています。

＜学校＞地域の方に学習・運動・文化活動を見てもらうことで児童理解を深めてもらい、学校に対する支援活動の輪が大きく広がってきています。また、生活科や総合的な学習を中心に多様な教材開発が可能になっています。

＜ボランティア＞実際の学校の現状を知ってもらい、クラブ活動や環境整備活動を中心に意欲的に生きがいを持って取り組んでいただいている。

今後の課題と展望

活動が毎年同じ場合、できるだけマンネリ化しないように場面設定を変えながら取り組む必要があると考えています。例えば、田植えや稻刈りなど、「人と物と事」のネットワークをとぎれないようにつなげていくことが必要です。

心豊かでたくましい子どもの育成のために

～地域との連携による教育活動を通して～



田舎館村西小学校支援地域本部 担当者：工藤 弓枝／西小学校 コーディネーター：阿保 满子

学校や地域の概要

西小学校の児童数は141名。明るく素直で優しい子どもたちが多く、課題や学習にも最後まで意欲的に取り組んでいます。保護者は学校行事や奉仕活動にも協力的で連帯感が強い地域です。

村の西部に位置し、浅瀬石川をはさんで水田単作地帯とJR川部駅周辺地区、工業団地とで構成された学区です。弘前市や藤崎町にも近く交通の便もよいところです。交通量が多いため、児童の通学安全面には特に注意をはらっています。

わが校のボランティア活動

＜学習支援＞交通安全教室、田植え、赤飯作り、学級園での野菜作り、むし歯予防教室、読み聞かせ、一人一鉢運動、不審者防犯教室、稻刈り、花いっぱい運動、すこやか会議、もちつき大会、とうふ作り、スキー教室、西の子雪祭り、祝い亀作り

＜環境支援＞交通安全指導、運動会準備補助、プールのベンキぬり、校外学習引率補助、安全安心110番の家協力依頼、夏休みプール監視、リサイクル資源回収、雪囲い

コーディネートの実際

学校の要望に対応できるように、ボランティアの現状を把握し、地域の団体やサークル活動の情報提供をする等、学校担当者との打ち合わせを密に行ってています。また、活動に参加したボランティアと積極的にコミュニケーションを図り、学校とボランティアの相互理解や調整に努めています。さらに、地域教育協議会での意見交換、月1回のコーディネーター会議での情報交換、支援活動を紹介するボランティア通信やコーディネーター便りの作成等を行っています。

担当者・コーディネーターから一言

担当者：PTAを中心に地区団体連絡協議会や老人クラブ、読み聞かせの方々等の協力で教育活動が子どもたちにとって広がりのあるものになっています。

コーディネーター：地域の方に学校がもっと身近な存在であることを知らせていくたいと考えています。

わが校の主な活動

◇全校児童とボランティアによる米作り

【1】田植えと赤飯作り

5月下旬、3～6年生が地域の老人クラブや学校田の田主さんの協力で田植えをします。1～2年生は、田植えの後の会食準備を手伝います。会食では、お母さん方が前日から準備して作った赤飯を全校児童がなかよし班に分かれて食べています。



【2】稲刈り

9月下旬、地域の老人クラブの方々と一緒に稲刈りをします。3～6年生は鎌の使い方、稲の束ね方、棒がけのやり方を教わりながら収穫作業をします。1～2年生は刈り終わった後の田んぼに入って落ち穂拾いをします。



【3】もちつき大会

11月下旬、収穫したもち米を使い、全校で各学年に分かれてもちつきをします。子どもとお父さんがつき、おばあちゃんがあいどり、子どもとお母さんが丸めるというふうに、この日は家族みんなで学校に来てもちつきを楽しめます。このものは、「回しもち」として地域のお年寄りにも配ります。

得られた成果

＜子ども＞ボランティアが参加することで子どもたちの活動に変化が生まれ、意欲的に参加し、表情も豊かになっています。保護者以外のボランティアとの交流で、人との接し方を学び、少しづつ社会性が身についてきています。

＜学校＞保護者の来校回数が増え、学校の教育活動への理解を深めてもらっています。

＜ボランティア＞保護者（ボランティア）が自分の子ども以外の子どもと接することで、保護者も子どももお互いに地域の人を知る機会となり、人と人との結びつきが広がってきてています。

今後の課題と展望

今まで行ってきた活動がマンネリ化しないように、子どもの実態に合わせて工夫しながら継続していくこと。また、その活動の中でボランティアと子どもたちとの関わり方や交流の場をどのように設定していくかが課題だと考えています。



中南地区

田舎館村

地域の子どもは地域みんなで

～心と心のつながりを地域の宝として～



田舎館村光田寺小学校支援地域本部 担当者：前田 周一／光田寺小学校 コーディネーター：岩谷 智恵

学校や地域の概要

光田寺小学校の児童数は94名。明るく素直な子どもたちが多く、学区住民は教育に関心があり、教育活動やPTA活動にも極めて協力的である。地域・家庭・学校と連携した「愛の声かけ運動」は昭和55年から続いている。

学区周辺には純農村地帯が広がり、米、りんご等の他に近年は花卉、野菜、ブドウ、イチゴ作りも盛んです。農業従事者は多いが専業農家は減少傾向で、兼業農家や会社員の家庭が増加しています。

わが校のボランティア活動

＜学習支援＞自転車教室、交通安全指導、田植え、むし歯予防教室、語り聞かせ、読み聞かせ、稻刈り、もちつき大会、祝い亀作り、とうふ作り

＜環境支援＞資源回収作業、学級花壇や畑の土おこし、校庭整備、愛のかけ声運動、校外学習引率補助、運動会準備補助、夏休みプール監視補助、図書の整理、マラソン大会コース警備

コーディネートの実際

学校と地域とのつながりができており、新たなボランティアの要請が少ない中で、学校担当者からの要請（校外学習の引率補助等）に対応したり、他地域での支援活動（図書の整理等）を紹介したりしています。また、活動の様子を取材し、ボランティア通信やコーディネーター便りを作成・配布する等の広報や普及活動にも取り組んでいます。さらに、月1回のコーディネーター会議で各学校の活動状況やボランティア人材について情報交換しながらコーディネートに生かしています。

担当者・コーディネーターから一言

担当者：学校に対して大変協力的な地域の方が多く、心強く感じています。

コーディネーター：地域の方が学校と力を合わせて子どもを守っている地域です。このつながりを大切にしてほしいと思っています。

わが校の主な活動

◇おはなしボランティア

【1】朝の昔話の語り聞かせ

木曜日の朝読書の時間（1学年2回：年1・2回）に、各学年の教室で地域のボランティアによる昔話の語り聞かせが行われています。子どもたちは、語り手のまわりに座り、絵本を使わない語りだけの昔話に引きこまれていきます。時には途中でストーリーについて語り手と問答しながら、登場人物の気持ちについて深く考えたり、想像を広げたりします。この日は『ばけもの寺とねこの名前』という話で、「ねこの名前は何かな？」の質問に、子どもたちは「タマ！」とか、いろいろな名前を言ったりしてとても楽しそうでした。



【2】昼の読み聞かせ

地域のボランティアサークル「おはなし会ひまわり」の方々による読み聞かせが昼休みに図書室で開かれています。年6回、低～高学年まで毎回20～30人ほどの子どもたちが、おはなしの世界を楽しんでいます。

この日は青森県出身の馬場のぼるさんの絵本「11ぴきのねこ、ふくろのなか」が紹介されました。子どもたちは、口々に「その本、知ってる！」と目を輝かせていました。読み聞かせが終わって、この本が図書室にも何冊かあることを知ると、「読んでみる！」と、子どもたちの読書意欲を誘っていました。



得られた成果

＜子ども＞様々な方が学校に来るようになり、職員以外の大人や地域住民と接する機会が増えていきます。

＜学校＞地域と学校が力を合わせることの良さを感じてきています。

＜ボランティア＞学校の様子や子どもたちの様子がよくわかるようになってきています。

今後の課題と展望

P T A主体の活動から地域全体を巻き込む活動になってきましたが、その人材をどうコーディネートしていくか、学校関係者とコーディネーターとの連絡や連携をより密にしていかなくてはいけないと考えています。



中南地区
田舎館村